

早稲田大学 教育学部
2018 年度 入試問題の訂正内容

＜教育学部 一般入試＞

【国語】

●問題冊子 3 ページ：設問（一）本文・後ろから 8 行目

（誤）

～多くの生活感覚においては、自分たちが古典的な…

（正）

～多くの生活感覚においては、自分たちが古典的な…

●問題冊子 6 ページ：設問（一）問七 選択肢 ホ

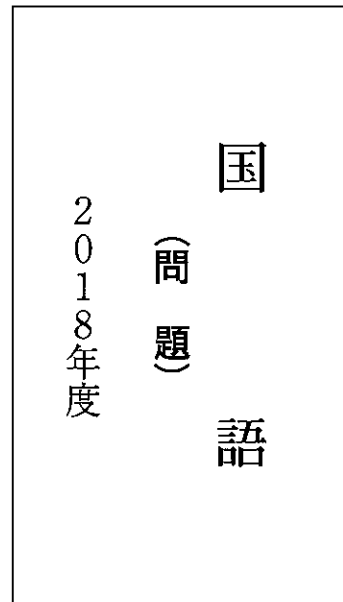
（誤）

リベラリズムの言う自由には、他者とかかわる自由と社会から独立する自由との両面を持つ、そのどちらとも…

（正）

リベラリズムの言う自由は、他者とかかわる自由と社会から独立する自由との両面を持つが、そのどちらとも…

以上



〈2018 H30120015 (国語)〉

注 意 事 項

1. 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
2. 問題は2～16ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. マーク解答用紙記入上の注意
 - (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
 - (2) マーク欄にははつきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。

マークする時	● 良い	○ 悪い	○ 悪い
マークを消す時	○ 良い	○ 悪い	○ 悪い

5. 記述解答用紙記入上の注意

- (1) 記述解答用紙の所定欄(2カ所)に、氏名および受験番号を正確に丁寧に記入すること。
- (2) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
- (3) 受験番号の記入にあたっては、次の数字見本にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。

数字見本	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

- (4) 受験番号は右詰めで記入し、余白が生じる場合でも受験番号の前に「0」を記入しないこと。

(例)

3	8	2	5	番
↓				
万	千	百	十	一
	3	8	2	5

6. 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
7. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
8. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
9. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

(一) 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

全知の脳科学者が、一方的に対象を観察するのみであるならば、この科学者は対象の行動を支配する論理を理解しているだけではなく、その理解と状況についてのデータをもとに、対象の行動を完璧に予測することができる。それだけではない。この全知の脳科学者が、少なくとも対象との関係において全能であるならば——すなわち、相手に知られず、気付かれないうまに、相手の行動を観察するだけではなく、相手の周囲の環境を陰から操作することができるのであれば——、相手の行動を相手に気付かれずに操作、制御することさえ可能であることになる。このような形で対象に対するコントロールを、東浩紀にならって「環境管理型権力」と呼ぶことができるが、それはフリーコー^①がリベラリズムの統治理性と呼ぶものと無縁ではない。つまりそれは、リベラリズム^②が重視する自由、私人としての人の自由をあからさまに侵害するものではなく、むしろそれを所与の前提として受け入れた上で働く権力であるからだ。

しかしながらこの「ギュゲスの指輪」^③を用いるまがいものの神の真似をせず、相手に自分の存在を晒し、相手と情報のやりとり（それは必ずしも言語的な「会話」である必要さえない）を開始してしまえば、もはやこの超脳科学者は、対象に対する深く完璧な理解を持つにもかかわらず、相手の振る舞いを完璧に予測することはできず、いわんやコントロールすることもできない。この時この脳科学者は、相手を自由な存在として扱わざるをえない。しかしこのことと、世界が——脳科学者とその観察対象を含めたすべてが——決定論的に動いていることは、全く矛盾しない。

ここで注意すべきは、「自由」がいわば実体概念ではなく、関係概念になっているということだ。つまり、個別の人間に内在する性質・能力としての「自由意志」なるものの実在はここでは想定されていない。あくまでも人と人との関係において「あの人は自由だ」と人が他者について下すという形で用いられるのが「自由」なる言葉の典型的な用いられ方である、と考える。つまり人が自分について「私は自由だ」と判断するのは、あくまでもそこからの派生的な効果（たとえば、「他人は私について「あの人は自由だ」と判断してくれている」と考えるという形で）によるものだ、とするわけである。

人が自らの主観的な自由の根拠を、自分の行為の自分にとっての予測不能性・制御不能性に求めるとしたら、ひどくおかしいことになる。もちろん、自分にとっての複数の選択の可能性が意識されていなければ、人は「自分は自由だ」という感覚を持つことはあるまい。しかしながら存在論的な「自由意志」論がふつう問題としているのは、言うまでもなく「人が自己の行為の複数の可能性についての自己意識を持つかどうか？」ではなく、「にもかかわらずその複数の可能性を前にして人が実際に行ってしまう選択が、意識されないレベルで自然法則によって因果的に決定されているのではないか？」である。

ごく普通に、人が自らの選択の複数の可能性を何らかの基準に従って比較衡量して、その基準に照らして「よりよい」と評価された方を選んでしまふ、と想定してみよう。^④このような選択は、全く当事者の主観においては「自由に」、「自由意志に則って」なされたものと言わざるをえないが、にもかかわらず決定論的世界観と矛盾することはない。そしてこのような選択は、「ギュゲスの指輪」をつけた全知の脳科学者にとっては完全に予測可能であるし、完璧な「環境管理型権力」の後者であるならばコントロールも可能である。

だがここで、仮に人の行為選択がいかなる基準にもよらない、完全にランダムなものであればどうか？ もしそうであるならば、完璧な脳科学者にとっても、この人の行為は、決定論的な意味では予測不能となってしまうだろう。しかしそうしたランダムな選択は、当事者の主観においては「自由な選択」であろうか？ そうではあるまい。それは「無意識」、「意志の弱さ」といった概念で問題とされるべきものだろう。むしろ反対に、客観的には完全に決定論的に理解できる、何らかの基準に照らしての選択の方こそが、当事者の主観的には「自由な選択」であり「自由意志の発揮」であろう。それは全知の脳科学者のおせっかいな予言に対して、へそを曲げてわ

ざとひねくれた選択をする場合においても同様である。あえて言えば、人が自らの自由なることを確信する根拠は、他者についての場合とは反対に、自らの行為が自らの欲求・意図によって決定されている、ということである。

このような選択は、法的に決定されたものであると同時に、普通の意味で「自由」なものであると呼ばれるをえない。もちろんその自由な行為の原因として、因果的法則性を超越する謎の力としての「自由意志」なるものがあるわけではなく、もし人が自分にそのような能力が備わっていると考えるとすれば、それは厳密に言えば「錯覚」であろう。しかしだからと言ってここで人が「自分は自由だ」と考えることまでも「錯覚」であると言ふなら、おかしいことになる。この人は「(無関係な観察者ではないところの) 他人によってその振る舞いが予測し切れず、コントロールもできない」つまり「他人にいいようにされない」という意味では「自由」なのだから。

6 注③

アレントが典型的に示すような意味での、古典的な自由概念は、以上のように考えるならば科学革命以降の我々の世界観とも十分に両立する。つまり我々にとっても古典的な自由概念は意味を失わない、というわけだ。コミュニケーションな関係において、我々現代人もまた、お互いを予測不能で操作不能だが理解可能な存在としてつまり自由な存在として扱う。問題は、主として日常生活における対面的なコミュニケーション関係におけるそうした「自由」の感覚と、我々の意味での近代的な「政治」や「経済」との関係、そこにおける「自由」とはどのような関係にあるのか、である。

このような意味での「自由」とは基本的には人間同士のコミュニケーションな関係性の中で物事に適用される言葉づかいであるが、英語の free やその対応語、そしてその翻訳語としての限りの日本語の「自由」はもう少し広い意味、たとえば物理法則のレベルにおいても「自由落下」(free fall) といった具合に、あるものの状態や運動が外部の力の干渉から免れている場合を形容する際にも用いられたりする。語源的には前者の用法の方が本来的で、後者は派生的な用法、転用であるわけだが、もう定着してしまった言葉づかいである以上「誤用」と批判することに意味はない。

だが、「消極的自由」の概念は、とりわけその自由主義的な意味合いにおいては、自然科学における「自由」という言葉づかいとある種似通った構造を持っている、と言ってよいだろう。自由主義的な意味での「消極的自由」とは、基本的には、リベラルな社会の中での、私的活動の自由のことである。⁷ もちろんそれは、他人とかかわらず孤立して、私的空間にこもつての私生活の自由のことのみを意味するわけではない。

ただそれは公共圏における行為としても、たとえば完全競争ないしそれに近い状態の市場において、具体的な取引相手と個別的なコミュニケーションを行わず、ただ市場に陳列された——物理的な店舗の店先であろうと、印刷物やネットの通信販売カタログであろうと——商品から、公開情報だけを頼りに買い物をする、といった振る舞いをその典型とする。つまり、外部環境への一方的な追従、適応である。「政治参加」の場合にも、公職選挙に際して、公的に周知の情報のみをもとに、一人で考えて投票する候補を決め、投票する、といった行動はこれに近い。要するにそれは「コミュニケーション可能な特定の他者との具体的な相互作用からの自由」である。

近代人の多くの生活感覚においては、自分たちが古典的な意味において「自由」であるのは主として私生活における近隣知己との関係、社会学風に言えば「親密圏」における振る舞いにおいてであって、公共圏においてはその意味での「自由」は例外的なエリート、権力者のみである、という風に感じられることが多いだろう。リベラリズムの尊重する「自由」とは、そうした親密圏における社交の自由と、大衆社会——個人による有意義な介入を受け付けず、ただ一方的に適応し、順応することを求める相手としての市場が代表する——における孤立者の自由であって、公的領域、公共圏における古典的な自由の可能性は軽視されている。⁸ その意味においてフーコーは、リベラリズムを「統治理性」であると説いたのである。それは市民の主体的な政治倫理ではなく、統治者の政策を統制する原理なのだ。

注① フーコー：フランスの思想家。

注② ギュゲスの指輪：透明人間になることができる指輪。

注③ アレント：ドイツ生まれの思想家。

問一 傍線部1「リベラリズムの統治理性」とあるが、ここにこの文章のテーマがよく示されている。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ ふつうリベラリズムは経済的に自立した人を個人と認める思想だと考えられているが、政治的自立こそが自由だと言える。

ロ ふつうリベラリズムは集団の自由を最大限尊重する思想だと考えられているが、集団の自由は無制限に許されるものではない。

ハ ふつうリベラリズムは他者に依存しない個人を確立する思想だと考えられているが、自覚的に他者に従うことも自由だと言える。

ニ ふつうリベラリズムは政治の経済への介入を避ける思想だと考えられているが、政治の経済への介入は自由を阻害するものではない。

ホ ふつうリベラリズムは国家の管理からの自由を重視する思想だと考えられているが、実は独特のやり方で人々を管理する機能が備わっている。

問二 傍線部2「リベラリズムが重視する自由、私人としての人の自由」の「自由」と、傍線部3「この時の脳科学者は、相手を自由な存在として扱わざるをえない」の「自由」の意味は異なっている。その違いの説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 傍線部2の「自由」は、主観的には自分は自由だと思える実体概念としての自由だが、傍線部3の「自由」は、全知の脳科学者にも理解できない関係概念としての自由である。

ロ 傍線部2の「自由」は、人間にそなわっていると思われる実体概念としての自由だが、傍線部3の「自由」は、その判断が他人にゆだねられる関係概念としての自由である。

ハ 傍線部2の「自由」は、人の意志が環境に決められてしまうような関係概念としての自由だが、傍線部3の「自由」は、全知の脳科学者なら予測可能な実体概念としての自由である。

ニ 傍線部2の「自由」は、個人の内面にあつて他者からは見えない実体概念としての自由だが、傍線部3の「自由」は、相手に悟られないように観察できる関係概念としての自由である。

ホ 傍線部2の「自由」は、人と人とは理解し得ないとするような関係概念としての自由だが、傍線部3の「自由」は、人間はコントロールできない存在だとする実体概念としての自由である。

問三 傍線部4「このような選択は、全く当事者の主観においては「自由に」、「自由意志に則って」なされたものと言わざるをえないが、にもかかわらず決定論的世界観と矛盾することはない」とあるが、なぜ「矛盾することはない」と言えるのか。その理由として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 当事者が客観的な立場から決めるような自由は、因果関係ですべてが説明できる決定論的世界観と同じように予測可能だから。

ロ 当事者が環境を考慮せずに決めるような自由は、因果関係ですべてが説明できる決定論的世界観と同じように予測可能だから。

ハ 当事者が全知の視点から選択するような自由は、因果関係ですべてが説明できる決定論的世界観と同じように予測可能だから。

ニ 当事者が何かをランダムに選択するような自由は、因果関係ですべてが説明できる決定論的世界観と同じように予測可能だから。

ホ 当事者が自分で設定した基準にしたがって選択するような自由は、因果関係ですべてが説明できる決定論的世界観と同じように予測可能だから。

問四 傍線部5「他者についての場合とは反対に」とあるが、この場合の「他者」とはどのようなものと考えられているか。傍線部5以下の本文中から一五字以上二〇字以内で抜き出し、初めと終わりの各五字を、記述解答用紙の所定の欄に記せ。

問五 傍線部6「アレントが典型的に示すような意味での、古典的な自由概念」とはこの本文に即してどのような「自由概念」だと考えられるか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 親密圏とは無縁の消極的な自由。

ロ 具体的な他者との関係における自由。

ハ 人間を取り巻く環境に影響される自由。

ニ 政治や経済を介した関わりの中での自由。

ホ 近代的な社会から孤立した自分だけの自由。

問六 傍線部7「もちろんそれは、他人とかかわらず孤立して、私的空間にこもっての私生活の自由のことのみを意味するわけではない」とあるが、ここに「のみ」とあるのはほかにどういう「自由」を想定しているからか。その「自由」の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 人間同士の関係を重視する社交的で相互的な自由。

ロ 身近な他者とも匿名の他者とも関係を持たない自由。

ハ 社会から孤立することで、与えられた情報に受け身になる自由。

ニ 物体が重力のみによって運動するように、科学的な裏付けを持った自由。

ホ 消費活動や選挙活動など社会に張り巡らされた消極的な情報を選ぶ自由。

問七 傍線部8「その意味においてフーコーは、リベラリズムを『統治理性』であると説いたのである」とはどういうことか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ リベラリズムの言う自由には、環境に左右されない強い内面性を持つので、全知の脳科学者のようなエリートが社会を統治する理性 となると説いている。

ロ リベラリズムの言う自由は、全知の脳科学者のように社会の力と対立するので、その性質によって外部を排除して社会を統治することが可能だと説いている。

ハ リベラリズムの言う自由は、社会においては全知の脳科学者のように外部の力の影響を受けにくいので、そのような自由に働きかけることで統治は可能だと説いている。

ニ リベラリズムの言う自由は社会の中での自由であって、外部に干渉されない一方的で特権的な側面を持つので、権力が全知の脳科学者のように人々を統治する原理となると説いている。

ホ リベラリズムの言う自由には、他者とかかわる自由と社会から独立する自由との両面を持つが、そのどちらとも異なっている全知の脳科学者のような自由を重視することで、はじめて国家による統治 可能になると説いている。

(二)

次の文章は、岡倉天心が英語で著した『茶の本』（一九〇六年）について解説を加えたものである。ここでは、冒頭の四角で囲った箇所が『茶の本』からの邦訳部分、そのあとがそれに対する解説である。これを読んで、あとの問いに答えよ。

大きく思える自分のものが実は小さいと感じられない人は、小さく見える他人のものが実は大きいことを見のがしがちである。平均的な西洋人は、『茶の湯』を見ても、無数の珍奇な事の一つとしか思わず、体のよい自己満足にひたることであろう。彼らにとつて珍奇な事は、東洋の風変わりや幼児性を代表するものとなっている。西洋人は、日本が平和の文芸にふけていた頃は野蛮国とみなしていたのに、満州の戦場で大規模な殺戮（さうりく）「日露戦争」に加わるようになってからは、文明国と呼んでいる。最近、武士道——兵士に喜び勇んで自己犠牲をさせる死の術——について盛んに論評されるようになってきた。しかし、『茶道』にはほとんど注意が払われていない。¹「茶道」はわれわれの「生の術」のかくも多くの部分を代表しているというのに。血なまぐさい戦争の榮譽がなければ文明国と主張できないのであれば、われわれはよるこんで野蛮国にとどまっていよう。われわれの芸術と理想にしかるべき尊敬が払われるときまで、よるこんで待つことにしよう。

天心は、「平均的な西洋人は、『茶の湯』を見ても、無数の珍奇な事の一つとしか思わず、体のよい自己満足にひたることであろう」と指摘しています。天心の念頭には、バジル・ホール・チェンバレンが著した『日本事物誌』^{注①}があったとも考えられます。『Tea Ceremonies』の項目は、次のように始まります。

日本の骨董品蒐集家のコレクションの中で、珍重されている小さい「日本のもの」が何らかの意味で茶道具である度合と比較すると、茶の湯 (cha-no-yu)、或いは「茶の湯」(tea ceremonies) が日本の骨董品蒐集家の興味の対象となることはほとんどなきに等しい。

幕末の開国によって、ジャポニズムといわれる日本趣味が流行します。そこで集められた収集品の出自をたどれば、茶道具になります。しかし、これらの収集品に匹敵するほどの熱狂は、『茶の湯』に対して向けられていなかったと、指摘されればたしかにそうでしょう。

ここでは、「日本のもの」が「小さい」と形容されていることに注意してください。

天心は、「大きく思える自分のものが実は小さいと感じられない人は、小さく見える他人のものが実は大きいことを見のがしがちである」と述べています。「小さい」という一般的な表現だけで、天心がチェンバレンを踏まえているというのは、無理かもしれません。しかし、チェンバレンが次のように続けているのを読んだらどう思われますか。

他のコレクターと論争するのが、まことのコレクターの本性の一部といっても過言でないで、日本の茶卓の周りでも論争が繰り広げられており、まさしく茶の器の中の嵐である。

チェンバレンは、その論争は次のようなものと述べています。

ある一派は、『茶の湯』がとるに足らぬめいしものと決めつけている。『茶の湯』の影響によって、美しさと古めかしさが混同されることによって、また、立派な価値のある特徴にたどり着いたのに出発点にひきもどされることによって、日本美術の天分が押し殺されたのだと断言している。反対派は、まさしくこの「茶の湯」こそが、深く有益な影響を与えたと論じている。『茶の湯』の影響によって、純粹さと單純さという天国への狭き道から、虚飾の俗悪美という破滅への広い道に陥ることを免れたのだと考えている。

チェンバレンの指摘を理解するためには、十九世紀末から二十世紀初頭にかけて、日本が万国博覧会に出品して高い評価を受けた美術品がどんなものであったのかに思いを馳せなければなりません。写实的で装飾的な、いわゆる輸出工芸品を目にすると、「派手でケバケバしすぎる」というふうに感じてしまいます。この感覚は、何

も茶人だけにとどまらず、多くの日本人も感じていたから、明治期の万国博覧会が研究テーマとして脚光を浴びるまで、国内で展示されることが少なかったのではないか、と思います。少なくとも、「茶道美術」を^甲カンした展覧会の中では、いまでも並べにくい作品です。

「輸出用の美術」という言い方もされるように、同じ日本美術であっても、趣味の傾向が違うものが存在していました。そして、当時の西洋人には、輸出用の美術のもつ趣味を評価する人が多かったわけですね。そうした西洋人（ある一派）にとっては、派手すぎる装飾を否定的に評価する茶の美意識は、むしろ、日本人の装飾と写実に長けた才能を抑圧した、望ましくない要因と受けとめられていました。もちろん、「茶の湯」に代表される美意識が日本の本流であると受けとめる人々（「反対派」）もいて、両者で論争が繰り返されているとチェンバレンは紹介しているわけです。

天心は、「茶道」の影響は、「住まいや習慣をはじめとして、服装や料理、陶器、漆器、絵画、そして文学にいたるまで、すべてが影響を受けた」と他の箇所でも述べています。この指摘も、チェンバレンの評価を意識していると考えれば、天心はチェンバレンよりも大きな視野に立って、「茶道」の影響力が江戸時代全般を通した長期間で、広範な領域にわたっていることに注意を喚起したかったのだ、ということもできるでしょう。

天心のチェンバレンへの反論は、「茶道」の基底をめぐる、より本質的な問題に及んでおり、そのことは次にとりあげます。

日本美術における茶道の美意識の影響を、肯定的に評価するか、否定的に評価するかの二派の論争があると紹介した後で、チェンバレンは「茶の湯」の歴史を記述していきます。「茶の湯」は、医学的宗教的な段階に始まり、華美の段階、そして審美的な段階と三段階で発展したというのがチェンバレンの認識です。〔Ⅰ〕

この紹介の仕方には、十九世紀から二十世紀初頭に広がったオーギュスト・コント流の実証主義の影響がみられます。〔Ⅱ〕 コントは、人間の精神を神学的、形而上学的、実証的の三つの段階に分類し、この段階を経て人間の精神は進歩していくものだと考え、これを三段階の法則と名付けました。〔Ⅲ〕 また、神学的な段階の中でも、宗教は汎神論→多神教→一神教と進歩したとらえています。〔Ⅳ〕 西洋人は、東洋の文明が自分たちより遅れたものと受けとめただけでなく、またその位置づけが、正當なものであると合理化する哲学を信奉していました。天心は、人類の進化の頂点にあると自己認識した当時の西洋人を念頭に置いて、「茶の本」で、東洋の文明が遅れただけのものではない、と説得しようとしていたのです。〔Ⅴ〕

さて、チェンバレンに戻れば、歴史的段階で、「審美的」との評価を「茶の湯」に下している点にも注意しておきましょう。「茶の哲学は、「審美主義」といっても普通に理解される意味にとどまらない」と、天心は他箇所でも述べています。その部分の解説では、英国での日本美術の愛好家と唯美主義の推進者が重なっていることを、天心は意識しているであろうとの指摘をしました。チェンバレンの説明は、日本国内での「茶の湯」の発展に関して「審美主義」という評価を下していますから、日本美術愛好とは無関係です。チェンバレンの指摘は、天心にとっては、「茶の湯」を審美主義のカテゴリーでとらえてよい、とのヒントになったことでしょう。

さて、『日本事物誌』は、茶事の形式の簡単な説明を加えた後に、それらが現在では流派による違いはあるけれども、いずれも千利休の制定に起源をもつと言及した後に、次のように「茶の湯」の項目を締めくくっています。

ヨーロッパ人にとっては、儀式は長つたらしくて、無意味である。一度ならず見学してみると、それは我慢のできないほど単調である。忍耐力を東洋人のように生まれつき持っていないヨーロッパ人は、何か新しいもの、何か生き生きとしたもの、何かすくなくとも論理と統一らしきものを強く求めてしまう。しかし、さりとて「茶の湯」が作られたのは、ヨーロッパ人のためではないのだ。「茶の湯」が、しかるべき人たちによって楽しまれているのなら、何も言うことはない。どの場合においても、茶とその儀式は、まったく無害なものである。お茶とおしゃべりの害にくらべてみれば、無害であることは、きつぱりと断言できる。

疑いもなく、たとえ、歴史が「茶の湯」に不名誉な記録を残していないにしても、「茶の湯」は、政治的陰謀の目的に使われてきた。しかし、そのような場合は稀である。「茶の湯」は、異国の信奉者の一部が神話化するような「哲学」を體現している域には達していないとしても、最終的な段階（である現在）の形態においては、芸術上の純粋性の理想を助けてきた。あるものは、「茶の湯」を無意味だと考えるであろう。しかし、誰も「茶の湯」に俗悪の烙印を押すことは出来ない。

この結論を読むと、天心はチェンバレンの記述を意識しながら「茶の本」を書いていたのだとつくづく思います。深読みをしていくと、「茶の本」のこの記述はチェンバレンのこの記述を意識しているのではというところが次々と出てきます。しかし、細かい部分に関してはさておき、もつとも重要な点を確認しておきましょう。チェンバレンが、「異国の信奉者の一部が神話化するような「哲学」を體現している域には達していない」と茶道に關して評価している点に注意してください。

この評価に対して、天心は「茶の本」で、茶道は「哲学」であると反論しているのです。したがって天心は、「哲学」を體現している域に達していることを証明するために、どのような記述をしているのか？ と考えることが、天心の意図を明確にしていくなかで、一番重要な問いかけであると思います。

冒頭の引用箇所では、武士道ではなく茶道が、日本の「生の術」を代表していると主張します。それに関連して、日露戦争になってようやく日本が文明国として扱われたことを、「血なまぐさい戦争の榮譽がなければ文明国と主張できないのであれば、われわれはよろこんで野蠻国にとどまっていよう」という印象的な一文で評論しています。

第二次世界大戦の敗戦国となった日本では、「戦争」にさまざまな想いが積み重ねられてきています。それぞれの「戦争」への想いを重ねてこの一文が読まれてきたのは、無理からぬところがあります。しかし、「茶の本」を書いた時点での天心は、第二次世界大戦はおろか、第一次世界大戦も知るヨシがない、という乾いた視点も必要でしょう。

チェンバレンを伏線として考えれば、近代になって日本人が自分たちの道徳を説明するために持ち出した「武士道」ではなく、茶道こそが、日本の哲学として古くから継承されてきているものだと言張することが、天心の主眼であったと考えられます。

（田中仙堂「岡倉天心「茶の本」をよむ」による）

注① 「日本事物誌」：外国人旅行者向けに英語で書かれた日本百科事典。一八九〇年に刊行され、ベストセラーになった。

問八 傍線部甲・乙の片仮名を漢字に改め、記述解答用紙の所定の欄に楷書で記せ。

問九 傍線部1「茶道」はわれわれの「生の術」のかくも多くの部分を代表している」とあるが、その具体的な説明として、この文章の筆者（田中仙堂）はどのように解説しているか。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 日本人の生活全般や芸術、ものの見方や考え方など、様々な日本文化を凝縮したものが「茶道」であり、一つの象徴として今も機能し続けている。
- ロ 世俗を超越できる信念体系と言える「茶道」は、武士道と並んで最終的には潔い死を志向するもので、中世以降、日本人の死生観を規定している。
- ハ 「茶道」の形式的・権威的な精神は、「長い物には巻かれよ」的な処世術をよしとする生き方を強要することにつながり、現代日本人の生活にも色濃く受け継がれている。
- ニ 「茶道」は、「華道」「禅道」「武士道」などと同様に本来東洋的な求道精神の表れであるが、明治以降、西洋的な世界観が折衷され、日本人の生き方の根底を支えている。
- ホ 長い鎖国政策の影響で、日本人の物事の捉え方の背景には、「茶道」に基づく内向きな日本文化こそを理想とし、西洋の文物は異国趣味として排除しようという意識が根強い。

問十 傍線部2「美しさと古めかしさが混同されることによって、また、立派な価値のある特徴にたどり着いたのに出发点にひきもどされることによって、日本美術の天分が押し殺された」とあるが、ここでチェンバレンはどのようなことを言いたかったのか。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 平安時代に築かれた王朝文化の華やかさを支える細やかな技術的伝統が、単純・簡素を旨とする「茶の湯」の美意識によって顧みられなくなり、室町時代末期以降衰退してしまったということ。
- ロ 鎖国政策が解けた明治維新前後に、主に西洋から様々な美術の潮流が流入し、わび・さびを基本とする、「茶の湯」の世界を背景とした古く美しい日本のな美術作品を駆逐してしまったということ。
- ハ 古風なものほど美しいといった誤った見方により「茶の湯」の美意識が高く評価されることで、せっかく当時の西洋人に珍重された、写实的で装飾的な美術品を作り出す才能が育たなくなってしまったということ。
- ニ 「茶の湯」で使われる茶道具について、古めかしいから美しいとは限らないという捉え方が生まれ、時代的な価値を先取りした派手な装飾が好まれるようになったため、虚飾の俗悪美に堕してしまったということ。
- ホ 伝統的な「茶の湯」の美意識に基づき、「小さい日本のもの」を創作していた工芸作家たちが、十九世紀以降、万国博覧会で高い評価を受けた輸出工芸品を目標として、装飾的な芸術を志向するようになってしまったということ。

問十一 文中から左の一文が脱落している。この一文が入る箇所として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

細かい点は別にして、西洋を頂点とする進化の系列の中に、他の文明の在り方が位置づけられる点が重要です。

イ I ロ II ハ III ニ IV ホ V

問十二 傍線部3「誰も「茶の湯」に俗悪の烙印を押すことは出来ない」とチェンバレンは言っているが、それはなぜか。その理由として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ「茶の湯」の儀式はヨーロッパ人にとっては退屈なものではないが、人間と自然とを一貫したものと
して受け止める日本人の心性を反映しているという点は理解できるから。

ロ「茶の湯」は、生の哲学を体现する域に達しているとは言えないが、いかに無意味で単調に思えても、
誰に対しても無害な存在であり、芸術上の価値も一定以上認められるから。

ハ生きていながら自分を無にするために「茶の湯」の長つたらしい儀式が必要という感覚は共有できない
が、自己犠牲によって自らを無とする武士道の精神ほど俗悪とは言えないから。

ニ「茶の湯」は歴史的に、華美の段階では虚飾の俗悪美を代表するものだったが、その後審美的段階に進
むことで、古めかしさを内包した、簡素で純粋な美しさに発展したと言えるから。

ホ異国の信奉者によつてしばしば神話化されることのある「茶の湯」だが、「茶の湯」の本質は不完全な
ものに対する崇拜であり、絶対的な創造神を崇拜する西洋的な価値観とは相容れないものだから。

問十三 傍線部4「茶道は「哲学」である」とあるが、天心とチェンバレンでは、茶道・茶の湯
に対する捉え方がどのように異なるか。その点を簡潔にまとめた次の文の空欄に当てはまる語として最も適
切な漢字一字を、記述解答用紙の所定の欄に記せ。

天心は、「茶道」は倫理・宗教と一体化した形で日本人の生き方そのものと深くかわるものと捉えてい
るが、チェンバレンは、「茶の湯」をあくまでも日本文化の の問題として評価している。

(三)

次の文章は、元弘の乱（一二三一年）後、鎌倉へ連行される源具行を書いたものである。本文を読んで、あとの問いに答えよ。

源中納言具行も、同じころ東へ率て行く。あまたの中に、とりわきて重かるべく聞ゆるは、さま異なる罪に当たるべきにやあらん。

内にさぶらひし勾当の内侍は、つねすけの三位の女なりき。早う御門むつまじくおはしまして、姫宮などとうで奉りしを、そのうちの中納言いまだ下臈なりし時より、ゆるし給はせて、この年ごろ二つなきものと思ひかはして過ぐしつるに、かくさまさまにつけて、あさましき世を、なべてにやは。

日にそへて嘆き沈みながらも、同じ都にありと聞く程は、吹きかふ風のたよりにも、さすがこととふ慰めもありつるを、つひにさるべきことは、人の上を見聞くにつけても、思ひまうけながら、なほ今はと聞く心地、たとへんかたなし。この春、君の都別れ給ひしに、そこら尽きぬと思ひし涙も、げに残りありけり、と今ひとしほ身も流れ出でぬべく覚ゆ。

中納言は、「ものにもがなや」とくやしき事のみぞ、そこには千々にくだくめれど、めめしう人に見えじと思ひかへしつ、つれなしづくりて、思ひ入れぬさまなり。去年の冬ごろ、あまた聞えし歌の中に、

4 ながらへて身はいたづらにはつ霜の置くかた知らぬ世にもふるかな

今ははやいかになりぬるうき身ぞと同じ世にだにとふ人もなし

佐々木の佐渡の判官入道伴ひてぞ下りける。逢坂の関にて、

かへるべき時しなればこれやこの行くを限りの逢坂の関

柏原といふ所にしばしやすらひて、あづかりの入道、まづ東へ人を遣したる返事待つなるべし。その程、物語りなどなきけなけしうちいひかはして、「何事も然るべき前の世の報いに侍るべし。御身一つにしもあらぬ乱れは、まして甲斐なきわざにこそ。かくたけ家に生れて、弓矢とるわざにかづらひ侍るのみ、うきものに侍りける」など、まほならねど、ほのめかすに、心えはてられぬ。

5 隠岐の御送りも仕まつりしものなれば、御道すがらのことなど語り出で、「かたじけなう、いみじうも侍りしかな。まして、朝夕近う仕まつりなれ給ひけん御心ども、さながらなん推し量り聞えさせ侍りき。何事も昔に及び、めでたうおはしましし御事にて、世下り時衰へぬる末には、あまりたる御有様にや、かくもおはしますらんとさへ、せめては思ひ給へよるる」など、大方の世につけても、げにと覚ゆるふしおし加へて、のどやかにて、酒など、所につけてことそぎ、あらあらしけれど、さるかたにしなして、よき程にて下しつ。

東よりの使ひ、帰り来たる気色しるけれど、ことさらにいひ出ることもなし。いかならんと胸うちつぶれて覚ゆるも、かつはいと心弱しかし、いづくの島守となれらんもあぢきなく、誰も千年の松ならぬ世に、なかなか心づくしこそまさらめ、つひに逃るまじき道は、とてもかくても同じ事、その際の心乱れなくだにあらば、すずしき方にも赴きなん、と思ふ心は心として、都の方も恋しうあはれに、さすがなることぞ多かりける。

7 万づにつけて、事の気色を見るに、行く末遠くはある

A

めり、と悟りぬ。あづかりがほのめかししも、

情けありて思ひ知らずれば、同じうはと思ひて又の日、「頭おろさんとなん思ふ」といへば、「いとあはれなることにこそ。東の聞えやいかと思ひ給ふれど、何でふことかは」とて許しつ。かくいふは六月の十九日なり。かのことは今日なめり、と気色見知りぬ。思ひまうけながらも、なほためしなかりける報いの程、いかが浅くはおばえん。

消えかかる露の命のはては見つさても

B

の末ぞゆかしき

なほも思ふ心のあるなめり、とにくき口づきなりかし。その日の暮れつた、つひにそこにて失はれにけり。いまはの際も、さこそ心の中はありけめど、いたく人わらうもなく、あるべきことと思へるさまになん見えける。内侍の待ち聞く心地、いかばかりかはありけん。やがてさま変へて近江の国高島といふわたりに、昔のゆかりの人々尊く行ひて住む寺にぞ立ち入りぬる。

問十四 傍線部1「ゆるし給はせ」、2「あり」、3「聞く」の主語は何か、それぞれ最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 源中納言具行 ロ つねすけの三位 ハ 勾当の内侍 ニ 姫宮 ホ 御門

問十五 傍線部4の和歌「ながらへて身はいたづらにはつ霜の置くかた知らぬ世にもふるかな」には掛詞が用いられている。掛詞の部分を抜き出し、平仮名で記述解答用紙の所定の欄に記入せよ（「ふる」は除く）。

問十六 傍線部5「まほならねど、ほめかすに」について、何をほめかしたのか。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 帝が隠岐に流罪にされたこと。
ロ 帝が近く死罪になるであろうこと。
ハ 佐々木が出家するつもりであること。
ニ 具行が近く流罪になるであろうこと。
ホ 具行が近く死罪になるであろうこと。

問十七 傍線部6「あまりたる御有様」とは何についてそう言っているのか。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 帝のすぐれた器量
ロ 具行の過酷な運命
ハ 具行の帝への深い愛
ニ 帝へのひどすぎる処罰
ホ 佐々木佐渡判官入道の奉公

問十八 傍線部7「つひに逃るまじき道は、とてもかくても同じ事」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 結局処刑されるのだから、何を訴えても意味もないことなので
ロ 結局ここから逃れる方法は一つだけで、あれこれ迷う必要はないので
ハ 結局人は死ななければならないという点では、どうであっても同じことで
ニ 結局命を奪うなどという非道は許されるはずもないから、何があっても同じことなので
ホ 結局この行きたくもない道を鎌倉まで行かざるをえないのだから、あれこれ考えても意味がないことなので

問十九 空欄 A に入るように助動詞「まし」を適切に活用させて、記述解答用紙の所定の欄に記入せよ。

問二十 空欄 B に入る語として最も適切な語を、波線部「なほも思ふ心のあるなめり、とにくき口つきなりかし」を参考に、本文中から抜き出し、記述解答用紙の所定の欄に記入せよ。

問二十一 傍線部 8 「いたく人わろうもなく」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ それほど恨みを抱くこともなく
- ロ ひどく見苦しいということもなく
- ハ 大変悪い性格というわけではなく
- ニ まったく恥じるべきことではなく
- ホ 決して人から非難されることなく

問二十二 『増鏡』と同様、元弘の乱を描いた軍記物語として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 太閤記
- ロ 将門記
- ハ 太平記
- ニ 平家物語
- ホ 保元物語

(四)

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。なお、設問の都合上、返り点・送り仮名を省いた箇所がある。

東^①安^②一士人善^{クシ}画^ヲ作^リ鼠^ノ一軸^ヲ献^ズ之^ヲ邑^③令^④初不知^⑤愛^⑥謾^⑦懸^⑧於^ニ壁^⑨旦^⑩而過^⑪之^ヲ軸必墜^⑫地^⑬屢^⑭懸^⑮屢^⑯墜^⑰令^⑱怪^⑲之^ヲ黎明^⑳物色^㉑軸^㉒在地^㉓而猫蹲^㉔其^㉕旁^㉖逮^㉗拳^㉘軸^㉙則^㉚踉蹌^㉛逐^㉜之^ヲ以^テ試^ミ群猫^㉝莫^㉞不然^㉟者^㊱於是^㊲始^㊳知^㊴其^㊵画^㊶為^㊷逼^㊸其^㊹作^㊺一^㊻八^㊼景^㊽圖^㊾亦^㊿殊[㋀]有[㋁]幽[㋂]致[㋃]如[㋄]「洞庭秋月」[㋅]之[㋆]態[㋇]耳[㋈]若[㋉]「瀟湘夜雨」[㋊]尤[㋋]難[㋌]形容[㋍]常[㋎]画[㋏]者[㋐]至[㋑]作[㋒]行人[㋓]張[㋔]蓋[㋕]以^テ別[㋖]之[㋗]渠[㋘]但[㋙]作[㋚]漁舟[㋛]吹[㋜]火[㋝]於[㋞]津[㋟]渡[㋠]以^テ火[㋡]明[㋢]髯[㋣]有[㋤]見[㋥]則[㋦]危[㋧]亭[㋨]在[㋩]岸[㋪]連[㋫]檣[㋬]在[㋭]步[㋮]耳[㋯]瀟湘[㋰]旧[㋱]有[㋲]故[㋳]人[㋴]亭[㋵]往[㋶]来[㋷]艤[㋸]二[㋹]舟[㋺]其[㋻]下[㋼]故[㋽]藉[㋾]此[㋿]以^テ見^㊀也^㊁

(曾敏行「独醒雜志」による)

注① 東安…地名。今の湖南省東安県。

注② 邑令…村長。

注③ 踉蹌…飛びかかること。

注④ 八景図…ここでは、「瀟湘八景図」のこと。「瀟湘」は今の湖南省を流れる川。「八景図」は、景色を

八つ切り取った組図。

注⑤ 張蓋…傘をさすこと。

注⑥ 津渡…渡し場。

注⑦ 髯…ほのかに、ほんやりの意。

注⑧ 危亭…屋根の高いあずまや。

注⑨ 連檣…たくさん並んだ舟の帆柱。

注⑩ 步…波止場。

注⑪ 艤舟…船を岸につなぐこと。

問二十三 傍線部「令初不知愛」の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 村長は、もともと絵のことなどまったく分からなかった。

ロ 村長は、生まれて初めて、絵を見て嫌悪の感情を抱いた。

ハ 村長は、初めから人知れず、この絵のすばらしさに惹かれた。

ニ 村長は、当初、この絵のよさが分からず愛着が湧かなかった。

ホ 村長は、初めこの絵が分からなかったが、次第に好きになった。

問二十四 ニヶ所の傍線部 A「屢」は、同じ読みである。その読みを、平仮名で記述解答用紙の所定の欄に記入せよ。

問二十五 傍線部 2「莫不然者」の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 全ての猫がその絵に向かって飛びかかろうとした。
ロ 猫がその絵に飛びかかるのは全く当然のことである。
ハ 全ての猫がぼんやり見とれて少しも反応しなかった。
ニ その絵を見た誰もが皆、猫が飛びかかるはずだと思った。
ホ 全ての猫がその絵に飛びかかろうとしたわけではなかった。

問二十六 空欄 B に入る最も適切な漢字一字を次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 人 ロ 道 ハ 玄 ニ 巧 ホ 真

問二十七 傍線部 3「故藉此以見也」の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ それゆえ、当地の著名な建物が描かれ、絵画の背景としてお目見えしたわけである。
ロ だからこそ、この建物の荘厳さを利用して、描画の意図を鑑賞者に分かせたのである。
ハ だからこそ、著名な建物を描き込み、それによって新しい描画方法を具体的に表現したのである。
ニ それゆえ、当地の著名な建物を描き込み、それにこと寄せて、瀟湘の絵画であることを示したのである。
ホ だからこそ、この著名な建物の長い歴史をも借りて、深みのある絵画として示すことができたのである。

問二十八 二重傍線部 C「殊有幽致」は、絵師の独特の個性を高く評価した一文である。この絵師の個性を記した文として、本文の内容と合致しないものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ この絵師は、漁船の灯火でぼんやり照らし出される渡し場の光景を描くことで、「夜雨」の雰囲気を出した。
ロ この絵師は、一般人には分かりにくくとも、動物の本能に強く訴えかけるような、対象の本質を的確に表現する絵を描いた。
ハ この絵師は、難しい画題の絵画にあえて挑み、独自のアイデアでその難題を見事に克服し、当時、非常に高い評価を得た。
ニ 一般的な「瀟湘夜雨」の絵では、傘をさしつつ送別する情景を描くのが一般的だったが、この絵師はそういう描き方をしなかった。
ホ 「洞庭秋月」における月や「江天暮雪」における雪のように、画題に含まれる要素をあえて描き込まない絵を、この絵師は描いた。

〔以下 余白〕

